

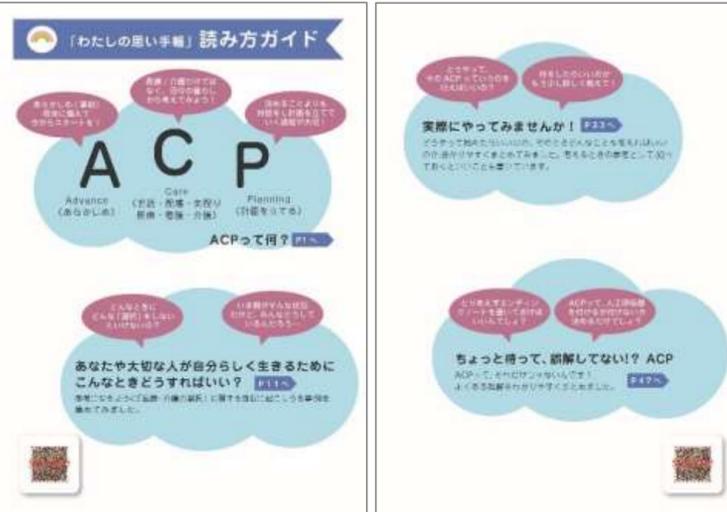
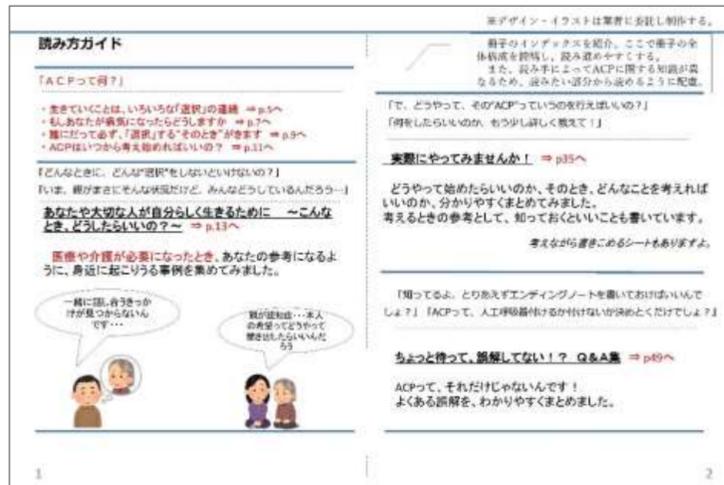
素案の頁

ACP普及啓発小冊子 素案      普及啓発小冊子

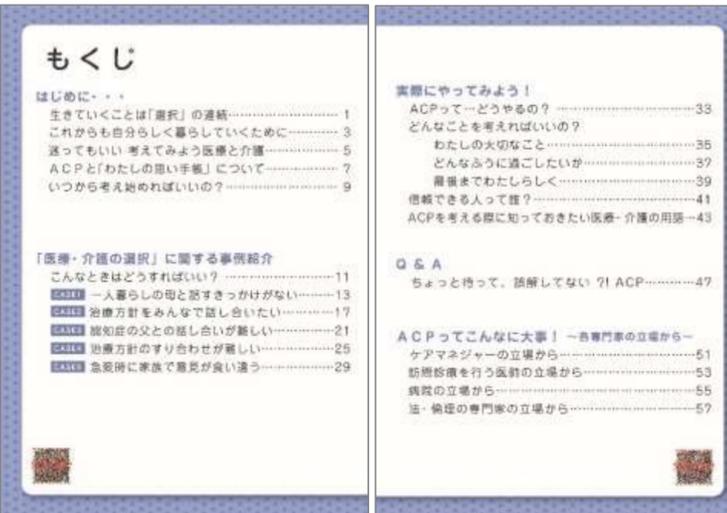
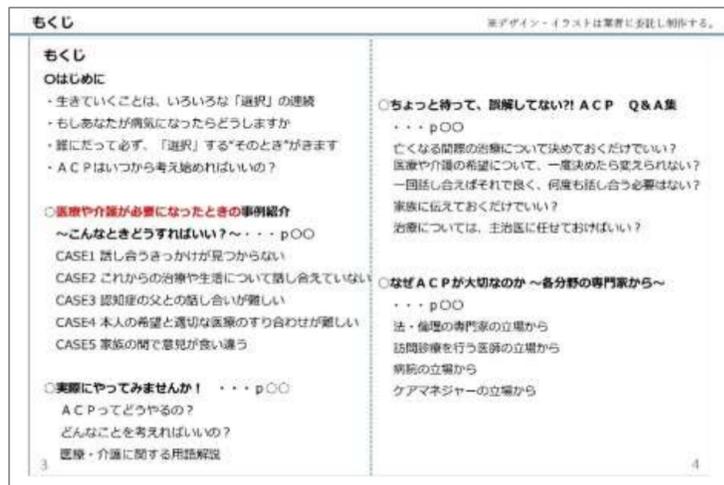
2



3



4







11

**事例紹介 <事例1>**

事例のポイント ~「話し合うきっかけ」~

①話し合うきっかけについて

まだまだ気が元気で、話し合うきっかけがなかったり、例えばこんな話もきっかけになります。

- ・ 家族の、生活などで変わったとき
- ・ 予定や計画で数の上昇や下りたとき
- ・ 介護の方向性が変わったとき

今回の事例では、家族が本人の身体状況のよくなった変化をきっかけにし、亡くなった家族の思い出話から本人が話したいこと、これからの過ごし方について、話し合うことになりました。

「どうしたいと思う?」「私だったら●●だよね」というように切り出して聞いてあげるといいですね。

②最初は「世間話」からでもOK

突然、「人工呼吸機つけますか?」「どこで透析を過ごしたい?」から始めるのは難しいです。最初は本人も戸惑っているか、これまで何を大事に生きてきたか、等、本人の価値観や人生観等を一緒に話してあげることが大切です。

「亡くなる時にどうしてほしいか」は、そうした日々の習慣や会話の積み重ねを土台に話し合うことで、本人も家族もそのときに納得した選択につながるのではないでしょうか。

**CASE1 一人暮らしの用と話し合いのきっかけ**

暮らしについて

そのほか、こんなことを考えていました

【状況や病状が変わったときには...】

【話し合うきっかけがないときには...】

12

**事例紹介 <事例2>**

CASE2 これからの治療や生活について話し合えない

それぞれの「選択」までの経過

【状況や病状が変わったときには...】

**CASE2 治療方針をみんなで話し合いたい**

治療方針について

暮らしについて

【話し合うきっかけがないときには...】

13

**事例紹介 <事例2>**

その後...

事例のポイント ~これからに向けた話し合い~

①治療のつらさや病状の変化から、考えが変わることはある

今回の事例のように、本人はもちろん、家族や大切な人も、一緒に考えたいことが思い、途中で変わることはよくあります。そのため、用意を繰り返し話し合い、思いや考えを共有することが大切です。

事例を振り返って

【その後、こんなことを考え話し合っていました】

【話し合うきっかけがないときには...】

**CASE2 治療方針をみんなで話し合いたい**

その後について...

暮らしについて

【話し合うきっかけがないときには...】





20

**基本的なACPの流れ**

ACPってどうやるの？  
～あなたらしく生きるための準備をしてみましょう～

① 考えてみる  
② 信頼できる誰かに話してみる  
③ 共有し、残しておく

困ったときは、かかりつけ医や、病院の患者相談センターで相談したり、介護や訪問看護を受けている場合はケアマネジャーや訪問看護師等にも相談できます。

21

**考えておく必要のある項目**

どんなことを考えればいいのか？

まずはここから…

- これまで大切にしてきたこと
- これからも大切にしたいこと
- いのちに対する考え方
- 財産についてどうしてほしいか

例えば…

- できるだけ仕事を最期まで続けたい
- 家族との時間を大切にしたい
- 病気になっても趣味の○○は続けたい
- どんな状態になってもいづれから治療を希望するが、少しでも延びたい

22

**考えておく必要のある項目**

どんなふうに過ごしたいか考えてみましょう…

- これから誰とどこでどのように過ごしたいか
- どこでどのような介護を受けたいか
- 口から食べられなくなったときの希望（胃ろう、点滴、経管栄養など）
- 誰に看取られたいか

例えば…

- これからも、住み慣れた自宅で過ごしたい
- 親類は、住み慣れた自宅で迎えたい。介護施設で最期を迎えたい
- できるだけ最期まで自分の口から食事をしてほしい
- 家族の○○（パートナーの○○）に看取ってほしい

**ACPって…どうやるの？**

あなたらしく生きるための準備をしてみましょう！  
ACPを進めるにあたって、まずは3ステップをひきます。この3ステップを順番に繰り返し、あなたの思いを家族や関係者にしっかりと伝えていきましょう。

**POINT**  
考えても考えても結論が出ない、思うようにできていない、考えることが大事であり、結論を出す必要はありません。1回考えて終わりではなく、次に考えたらきちんと結論が出るかもしれません。繰り返しACPサイクルを回すことが大切です。

**かんたん！ ACPサイクル**

- 1 考えてみる
- 2 信頼できる人に話す
- 3 共有して残す

**まずはここから…**

まずはあなたの大切にしていることについて考え話し合ってみよう。

- これまで大切にしてきたこと
- これからも大切にしたいこと
- いのちに対する考え方
- 財産についてどうしてほしいか

あなたにもしもの事が起こった際でも、あなたの希望・思いや思いを尊重した支援を行う際の参考にしてください。

**考えておく必要のある項目**

誰に何を話してみよう。

例えば…

- できるだけ仕事を最期まで続けたい
- 家族との時間を大切にしたい
- 病気になっても趣味の○○は続けたい
- どんな状態になってもいづれから治療を希望するが、少しでも延びたい

**どんなふうに過ごしたいか…**

どのような生活・暮らしをしていきたいか、どんな介護を受けたいか、考え話し合ってみよう。

あなたの思いに寄り、日々の暮らしにも支障がでたときに、どのような生活・暮らしをしていきたいか、どんな介護を受けたいか、考え話し合ってみよう。

家族や医療・介護関係者と話し合ってみよう。あなたが希望する生活や暮らしを続けることへの備えができます。

- これから誰とどこでどのように過ごしたいか
- どこでどのような介護を受けたいか
- 口から食べられなくなったときの希望（胃ろう、点滴、経管栄養など）
- 誰に看取られたいか

例えば…

- これからも住み慣れた自宅で過ごしたい
- 親類は住み慣れた自宅で迎えたい
- できるだけ最期まで自分の口から食事をしてほしい
- 家族の○○（パートナーの○○）に看取ってほしい

23

**考えておく必要のある項目**

※デザイン・イラストは素案に多量に制作する。印刷紙で書き込むことのできるシートを作成する。

**最期まであなたらしく生きるための医療・介護について考えてみましょう・・・**

これまで考えたことをふまえて、最期まであなたらしく生きるための医療・介護について、考え話し合ってみましょう。もしも、あなたが病気などにより意思表示が難しい状態になったときに、どんな医療や介護を受けたいか、家族や医療・介護関係者と話し合っておくことで、あなたの考えに沿った医療や介護を受けられる可能性が高くなります。

- 自分で呼吸ができなくなったとき人工呼吸器をつけたいか
- 心臓停止に至ったとき心臓蘇生を受けたいか
- 人工透析を行いたいか/いつまで継続したいか
- その他、受けたくない医療処置、受けたい医療処置
- 自分が意思表示できなくなったとき、自分の代わりに医療や介護について判断してほしい人はだれか

※心臓や肺、腎臓の機能が低下した時の対応については、医療や介護に関する用語解説〇〇ページを参照

**例えば・・・**

- 苦痛を伴っても痛みをいから、心臓蘇生や人工呼吸器の処置を受けたい・・・
- 最期は心臓蘇生や人工呼吸器の処置をせずに静かに静養してほしいけど、病気の初期のための処置は継続したい・・・
- 最期までできる限り苦痛を緩和してほしいけど、意識がなくなる状態は嫌だ
- いよいよ自分が意思表示できなくなった時、〇〇に代わり決めてほしい

医療や介護のことは、自分の病気の経過や病状などを踏まえて考える必要があり、自分や家族だけで考えることが難しい場合があります。実際には、かかりつけ医や、病棟の主治医、看護婦などから助言を受け、一緒に考えながら決めていくこととなります。

24

**3章 ④ 信頼できる人に関する情報**

※デザイン・イラストは素案に多量に制作する。

「信頼できる人」はだれかを考えてみましょう。(参考：神戸大学「これからの医療・ケアに関する話し合い」)

あなた自身のことよく理解してくれている医師や家族や友人、病院などによりあなたが自分や病状や病状を伝えられる・・・あなた自身のことよく理解してくれている医師や家族や友人、病院などによりあなたが自分や病状や病状を伝えられる・・・

※なぜ「信頼できる人」を決めておく必要があるのでしょうか

あなたが病状や病状を伝えられる・・・あなた自身のことよく理解してくれている医師や家族や友人、病院などによりあなたが自分や病状や病状を伝えられる・・・

「信頼できる人」は、一人だけで決める必要はありません。信頼できる人も複数ある場合があります。あなた自身のことよく理解してくれている医師や家族や友人、病院などによりあなたが自分や病状や病状を伝えられる・・・

25

**3章 ⑤ 医療や介護に関する用語解説**

※デザイン・イラストは素案に多量に制作する。

医療や介護の用語について、簡単に説明します。

1. 医師

2. 看護師

3. 介護士

4. 薬剤師

5. 理学療法士

6. 作業療法士

7. 言語聴覚士

8. 臨床心理士

9. 社会福祉士

10. 介護福祉士

11. 介護支援専門員

12. 介護職員

13. 介護職員等特定処遇改善増給金

14. 介護職員処遇改善増給金

15. 介護職員処遇改善増給金

16. 介護職員処遇改善増給金

17. 介護職員処遇改善増給金

18. 介護職員処遇改善増給金

19. 介護職員処遇改善増給金

20. 介護職員処遇改善増給金

**最期まであなたらしく生きるための医療・介護について...**

最期まであなたらしく生きるための医療・介護について、考え話し合ってみましょう。

これまで考えたことをふまえて、最期まであなたらしく生きるための医療・介護について、考え話し合ってみましょう。

もしも、あなたが病気などにより意思表示が難しい状態になったときに、どんな医療や介護を受けたいか、家族や医療・介護関係者と話し合っておくことで、あなたの考えに沿った医療や介護を受けられる可能性が高くなります。

- 自分で呼吸ができなくなったとき人工呼吸器をつけたいか
- 心臓停止に至ったとき心臓蘇生を受けたいか
- 人工透析を行いたいか/いつまで継続したいか
- その他、受けたくない医療処置、受けたい医療処置
- 自分が意思表示できなくなったとき、自分の代わりに医療や介護について判断してほしい人はだれか

**POINT**

医療や介護のことは、自分の病気の経過や病状などを踏まえて考える必要があり、自分や家族だけで考えることが難しい場合があります。

**信頼できる人って誰？**

「信頼できる人」は誰かを考えてみましょう。

自分のことよく理解してくれている医師や家族や友人、病院などによりあなたが自分や病状や病状を伝えられる・・・あなた自身のことよく理解してくれている医師や家族や友人、病院などによりあなたが自分や病状や病状を伝えられる・・・

※なぜ「信頼できる人」を決めておく必要があるのでしょうか

あなたが病状や病状を伝えられる・・・あなた自身のことよく理解してくれている医師や家族や友人、病院などによりあなたが自分や病状や病状を伝えられる・・・

「信頼できる人」は、一人だけで決める必要はありません。信頼できる人も複数ある場合があります。あなた自身のことよく理解してくれている医師や家族や友人、病院などによりあなたが自分や病状や病状を伝えられる・・・

**ACPを考えた時に医療・介護の用語**

ACPを考えた時に医療・介護の用語について、簡単に説明します。

1. 医師

2. 看護師

3. 介護士

4. 薬剤師

5. 理学療法士

6. 作業療法士

7. 言語聴覚士

8. 臨床心理士

9. 社会福祉士

10. 介護福祉士

11. 介護支援専門員

12. 介護職員

13. 介護職員等特定処遇改善増給金

14. 介護職員処遇改善増給金

15. 介護職員処遇改善増給金

16. 介護職員処遇改善増給金

17. 介護職員処遇改善増給金

18. 介護職員処遇改善増給金

19. 介護職員処遇改善増給金

20. 介護職員処遇改善増給金

26



27



28



29

5章 なぜACPが大切なのか 各専門家の立場から

◆なぜACPが大切なのか 各専門家の立場から

○ 医師の立場から 医師会代表者

医師は人生の最期を看取る責任を負う。その責任を全うするためには、患者の意思を尊重し、その意思に基づいて適切な医療を提供することが求められる。ACPは、医師が患者の意思を事前に把握し、適切な医療を提供するために重要な役割を果たす。ACPは、医師が患者の意思を事前に把握し、適切な医療を提供するために重要な役割を果たす。

○ ケアマネジャーの立場から 社会福祉士

ACPは、高齢者が安心して生活できるようにするための重要なツールである。ACPは、高齢者が安心して生活できるようにするための重要なツールである。ACPは、高齢者が安心して生活できるようにするための重要なツールである。

30

5章 なぜACPが大切なのか 各専門家の立場から

◆なぜACPが大切なのか 各専門家の立場から

○ 医師の立場から 医師会代表者

医師は人生の最期を看取る責任を負う。その責任を全うするためには、患者の意思を尊重し、その意思に基づいて適切な医療を提供することが求められる。ACPは、医師が患者の意思を事前に把握し、適切な医療を提供するために重要な役割を果たす。ACPは、医師が患者の意思を事前に把握し、適切な医療を提供するために重要な役割を果たす。

○ ケアマネジャーの立場から 社会福祉士

ACPは、高齢者が安心して生活できるようにするための重要なツールである。ACPは、高齢者が安心して生活できるようにするための重要なツールである。ACPは、高齢者が安心して生活できるようにするための重要なツールである。

31

5章 なぜACPが大切なのか 各専門家の立場から

◆なぜACPが大切なのか 各専門家の立場から

○ ケアマネジャーの立場から 社会福祉士

ACPは、高齢者が安心して生活できるようにするための重要なツールである。ACPは、高齢者が安心して生活できるようにするための重要なツールである。ACPは、高齢者が安心して生活できるようにするための重要なツールである。

ACPってこんなに大事！

人生100年時代の到来に伴って、平均寿命が延びる一方、高齢化が進む中で、高齢者の健康寿命を延ばすことが求められています。ACPは、高齢者が安心して生活できるようにするための重要なツールです。ACPは、高齢者が安心して生活できるようにするための重要なツールです。

健康寿命とACP

健康寿命とは、健康で生活できる期間のことです。ACPは、健康寿命を延ばすために重要な役割を果たします。ACPは、健康寿命を延ばすために重要な役割を果たします。

ACPってこんなに大事！

人生100年時代の到来に伴って、平均寿命が延びる一方、高齢化が進む中で、高齢者の健康寿命を延ばすことが求められています。ACPは、高齢者が安心して生活できるようにするための重要なツールです。ACPは、高齢者が安心して生活できるようにするための重要なツールです。

50歳過ぎたらACP

50歳を過ぎたら、ACPを検討することが大切です。ACPは、高齢者が安心して生活できるようにするための重要なツールです。ACPは、高齢者が安心して生活できるようにするための重要なツールです。

ACPってこんなに大事！

ACPは、高齢者が安心して生活できるようにするための重要なツールです。ACPは、高齢者が安心して生活できるようにするための重要なツールです。ACPは、高齢者が安心して生活できるようにするための重要なツールです。

悔いを残さないためACP

ACPは、後悔を残さないための重要なツールです。ACPは、後悔を残さないための重要なツールです。ACPは、後悔を残さないための重要なツールです。

